



# 緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2021.5.12

## 学校茶畑茶摘み体験

連休明けの今月 10 日、お天気にも恵まれて、学校茶畑で全校児童・生徒によるお茶摘みが行われました。保護者の方で参加を楽しみにされていた方も少なからずいたのではないかと思います。残念ながら今年も感染症対策のため、保護者の方にご参加いただくことはできませんでした。来年度こそはと思うばかりです。児童生徒は、去年は分散登校期間中であつたので二日に分けての実施でしたが、今回は全員で実施することができました。小中学生合同の縦割り班で行い、中学生が低学年に優しく声掛けをして気遣う姿が印象的でした。低学年の児童も含めて、みんな時間いっぱい集中して作業していて、大変立派な活動ぶりで感心しました。頑張りの成果として、昨年を大きく上回る 43 キロの手摘みの新茶を収穫することができました。

新宮を知っている人に「新宮といえば？」と質問すれば、多くの方がまず「お茶」と答えるほど、新宮にとってお茶は欠かせないものです。お茶は新宮にとって、重要な産業でもあり、誇りでもあると思います。新宮茶は、県内はもとより県外まで知れ渡っており、新宮茶を使って作られる霧の森大福は全国区の知名度とっていいでしょう。本校が行っている、体験学習の中でも、茶摘みは大変人気がある行事ですが、ただ単に茶摘みを体験するというだけでなく、新宮地域が大切にしている産業、ひいては歴史や伝統を学んでいると捉えています。全国でも珍しい無農薬栽培で香り豊かな新宮茶ができた歴史や地域が大切に守り育ててきたことをしっかり感じ取っていただける行事としていきます。

今年の秋に、中学 2、3 年生を対象に砂金取り体験を行う予定にしております。（昨年予定していましたが、感染症蔓延のため中止となりました。）そのため、先日四国砂金の会の方からお声掛けをいただき、事前打ち合わせという形で砂金取りを体験しました。私も、小さな小さな粒でありましたが、三粒ほど砂金を発見することができ、大変貴重な体験をしました。同行されていたマイントピア別子の方と合わせて、お二人から様々なお話を聞きました。お二人とも穏やかなお人柄でしたが、経験や長年の研鑽からくる深い知識と技術からは、プロフェッショナルとしてのすごみを感じました。お二人の話からは、やはり単に砂金を取る体験をするのではなく、新宮地域で砂金取りが行われていた歴史や、技術を含めて伝統をつないでいきたいという思いがひしひしと伝わってきました。

本校では、様々な体験学習を行っていますが、ただ単に体験で終わることなく、歴史や文化、伝統を知り、そこから自分の生き方について学び取っていただけるような学習としたいと思っています。

最後になりましたが、茶摘みに至るまでの過程において、大西茶園様、PTA 会員様等多くの方のご尽力ご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。